

街に生き
街に死す



1 《郵便配達夫》1928年 大坂中之島美術館

佐伯祐三

自画像
Sasaki Yuzo:
としての
風景
Emerging from
the Urban Landscape

配布資料

休館日 月曜日(三月二七日開館)

開館時間 一〇時～一八時(金曜日～二〇時)

*入館は閉館三〇分前まで

入館料

一般一四〇〇円、高校・大学生二二〇〇円、
中学生以下無料

*障がい者手帳等持参の方は一〇〇円引き

(介添者一名は無料)

◎最新情報・チケット購入方法は

美術館ウェブサイトでご確認ください

開催内容が変更になる場合があります

2023.
I.2I^(土)
4.2^(日)

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



大阪、東京、パリ

描くことに命を捧げた
伝説の洋画家

3つの街で、画家としての短い生涯を燃焼し尽くした画家、佐伯祐三(1898-1928)。2023年に生誕125年を迎える佐伯の生涯は、多くのドラマと伝説に彩られています。そして、彼が生み出した作品群は、今なお強い輝きを放ち、見る者の心を揺さぶらずにはおきません。本展は、東京では18年ぶりとなる本格的な佐伯祐三の回顧展です。大阪中之島美術館が所蔵する国内最大の佐伯祐三コレクションを核に、全国の美術館と個人所蔵家から集めた多くの名品で構成される本展は、佐伯芸術の魅力を再認識し、新たな発見へと導く機会となることでしょう。1898年に大阪で生まれた佐伯祐三は、25歳で東京美術学校を卒業し、その年のうちにパリに向かいます。作品を見せたフォーヴィスムの画家ヴラマンクから、「このアカデミック!」と罵声を浴びたことが、佐伯を覚醒させます。2年間の最初のパリ滞在中に、ユトリロやゴッホなどからも影響を受け、佐伯の作品は大きな変貌を遂げます。1年半の一時帰国を経て、再渡欧したのは1927年のことです。このとき佐伯は29歳になっていました。パリに戻った佐伯は、何かに憑かれたかのように猛烈な勢いで制作を続けますが、結核が悪化して精神的にも追い詰められ、1年後にパリ郊外の病院で亡くなりました。佐伯にとってパリは特別な街でした。重厚な石造りの街並み、ポスターが貼られた建物の壁、プラタナスの並木道、カフェ、教会、さらには公衆便所までが、傑作を生み出す契機となりました。また、多くの画家たちや作品と出会い、強い刺激を受けたのもパリでのことでした。一方で、生誕の地・大阪、学生時代と一時帰国時代を過ごした東京も、佐伯芸術を育んだ重要な街でした。本展では3つの街での佐伯の足跡を追いながら、独創的な佐伯芸術が生成する過程を検証します。

見どころ

◎厳選した代表作100余点を一堂に展示

◎東京では18年ぶりとなる回顧展

◎赤いレンガ壁の空間で味わう、重厚なパリの街並みを描いた数々の名作



2 《立てる自画像》1924年 大阪中之島美術館



3 《レストラン(オテル・デュ・マルシェ)》1927年 大阪中之島美術館



4 《コルドヌリ(靴屋)》1925年 石橋財団アーティゾン美術館



5 《モランの寺》1928年 東京国立近代美術館



6 《下落風景》1926年頃 和歌山県立近代美術館



7 《汽船》1926年頃 大阪中之島美術館

主催 | 東京ステーションギャラリー[公益財団法人東日本鉄道文化財団]、読売新聞社
住所 | 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
交通 | JR東京駅 丸の内北口 改札前 Tel.03-3212-2485 ウェブサイト<https://www.ejrcf.or.jp/gallery/>
巡回先 | 大阪中之島美術館 2023年4月15日[土]~6月25日[日]

広報に関するお問い合わせ: 東京ステーションギャラリー(羽鳥) Tel.03-3212-2763

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

